

社 会

以下で引用している問題は、すべて 2023 年度前期入試の問題です。

社会科の問題は、歴史・地理・公民のいずれの分野からも出題しています。6年生の教科書では最後に扱われる現代の歴史や国際社会に関する内容も範囲に含まれます。

社会科の学習においては、教科書は必ず最後まで目を通し、しっかりとした知識を得ておくようにしてください。日々のニュースや国際情勢について関心を深めておくことも大切です。

また必要な知識を確実に身につけることも重要です。昨年度の入試でも、基本的事項を問う問題を多く出題しています。ただし学習にあたっては、単にたくさんのがらが丸暗記するのではなく、それぞれの意味をしっかりと理解していくことを意識してください。さらに、覚えておかなければならないさまざまな語句や人名についても、いろいろなことがらと関連付けて覚えていけば変な混同や誤字はなくなります。教科書を「眺めて覚える」だけではなく、自ら手を動かして「書いて覚える」、「自分なりに表にまとめて整理する」といったことも学習には効果的です。語句や人名について、漢字で書ける部分はできるだけ漢字で書く努力もしてください。

さて、社会科の知識を深めるためには、地図や図表といった資料を用いた学習が欠かせません。例えば、日本地理に関する大問①の問1（2）は次のような問題です。

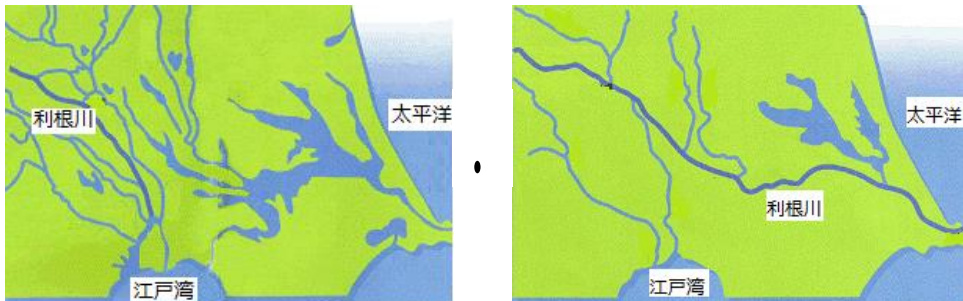
岩手県、福島県、長野県、新潟県の地形に関する次の文のうち、岩手県に関するものを1つ選び、記号で答えなさい。

- あ. 東部には山脈が、北部の沿岸には平野があり、その海岸線はなだらかである。
- い. 西部には山脈が、東部には山地がそれぞれ南北にのびており、東側の海岸線は入り組んでいる。
- う. 中央部には湖が、東部には南北にのびる高地があり、東側の海岸線は単調である。
- え. 中央部には湖が、北西部と南部には南北にのびる山脈があり、海岸はない。

この大問は地理に関する内容ですが、あえて地図を使った出題とせず、頭の中で地図をイメージしながらそれぞれの県の地形の特色を考える問題としています。

この問題に続く、雨温図に関する（3）、自然災害に関する（4）も、各県の位置についての知識は必須であり、日ごろ地図を用いて学習する習慣がついているかが問われています。

一方、東京都内の各地点に関して歴史・公民分野を広く問うた大問⁴のB問9は、近世に行われた利根川の河川改修に関する地図をもとに、その理由として誤りを含むものを選ぶ問題です。まずは下の2つの地図を見比べて下さい。



(国土交通省 関東地方整備局 利根川上流河川事務所ホームページをもとに作成)

イチロー君は、家康が利根川を東に付け替えた理由を考えました。明らかに間違っている理由を次から1つ選び、記号で答えなさい。

- あ. 「江戸湾に流れ込む水の量を減らして、洪水を防ぐためじゃないかな。」
- い. 「河川を整理して水域を減らし、新たに農地や居住地を確保するためじゃないかな。」
- う. 「外様大名の島津氏が江戸に最短距離でせめ上ってきても、江戸の町を防衛できるようにじゃないかな。」
- え. 「危険の多い房総半島沖を回らなくても、東北地方からの物資を江戸に運べるようにするためじゃないかな。」

ここでは、地図をよく見て河川改修の内容をつかみ、そのうえで地図に示されていない地域との位置関係も考慮して答えを選ぶ必要があります。歴史の学習においても地図を活用することで、「なぜここで戦いが起こったのか」、「この地域に支配を広げるとはどのような意味をもつのか」といったことを考えるヒントとなり、新たな気づきを得るきっかけにもなります。

また、同じ大問4のA問7(3)の③では、2022年に行われた参議院議員選挙について、各都道府県の有権者数のデータをもとに、合区の対象となった県の組み合わせと、合区の理由を問うものでした。

選挙区は本来、都道府県を単位として47ありましたが、現在では「合区」によって45になっています。合区が行われた県の組み合わせとして正しいものを次から2つ選び、記号で答えなさい。また、合区が行われた理由を、下の【資料】を参考に答えなさい。

- あ. 岩手県と宮城県 い. 栃木県と群馬県 う. 石川県と富山県
え. 鳥取県と島根県 お. 徳島県と高知県 か. 福岡県と佐賀県

【資料】選挙当日の有権者数

合区A(2県、定数1)	46.3万人+55.7万人
合区B(2県、定数1)	59.4万人+61.9万人
東京都(定数6)	1145.5万人
神奈川県(定数4)	769.7万人

(総務省ホームページより作成)

解答にあたっては、特に人口の少ない2つの県の組み合わせを選ぶこととなりますが、こうして具体的な数値をみることで、いわゆる「一票の格差」に伴う問題が非常に大きいことを実感できます。

このように社会科の学習では、基本的な知識を土台として、さまざまな資料を用いて考察することにより、さらに深い気づきを得て、課題に取り組むことができます。

受験生のみなさんには、今後も深く、楽しく社会科の学習を進めていってほしいと願っています。